

タルタマ通信

垂水高等学校だより

第6号

平成27年10月19日発行



体育祭を楽しんだ!! 盛り上げ

9月12日(土)の快晴の中、創立90周年記念第68回体育祭を開催しました。今年度は記念大会ということちょっとした企画を用意しました。競技に参加していただいた来賓やPTAの方々に、地元垂水市漁協や丸庄水産から提供していただいたカンパチ「海の桜勘」のフィレやお食事処「ラーメン居酒屋 樹(いつき)」のサービス券などを抽選で7人の方々にプレゼントしました。また、1500m走では着任早々の垂水幹部派出所員の赤崎さんの飛び入り参加で盛り上げていただいたり、鹿屋市内の高校生も競技に参加したり、競技用具等の搬入搬出にも手伝ってもらった方々の参加をいたした大盛況の体育祭でした。競技は、



1年(黄)、2年(赤)、3年(緑)に分かれて競いました。昨年は1年(現2年)が優勝し、連続優勝の期待がかかりましたが、結果的には、3年生(緑)が意地と見事な団結力で優勝を収めました。どの競技も力一杯出し切りしました。特に、競技中のクラスメートに対して、張り裂けんばかりの大声で応援している姿は、感動的でした。記念大会に相応しい充実した体育祭になりました。来賓PTA、地域の方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。



3年団長に優勝旗授与

PTAも入った綱引き

進路出発式 祈 合格

進路決定の時期を迎え、3年生の進路先合格を祈願し、併せて、1・2年生の進路実現に向けて意欲を高めるために、9月15日(火)に「進路出発式」を行いました。校長先生の力強い激励の挨拶のあと、「いよいよ天王山を迎えました。悔いのないように全力を尽くします。」と3年生を代表して山ヶ城勝義くんが決意の言葉を述べると、「僕たちも後に続きます。先輩方ががんばってください。」と生徒会長の2年生園田勝章くんが激励の言葉を贈りました。3年生合計34人がそれぞれの進路に向かって漕ぎ出そうとしています。垂水高校全員で校歌で送り出しました。全員の合格を祈ります。



山ヶ城くんの決意の言葉

川の誕生の瞬間を覚えて

9月18日(金)に自然体験学習「沢登り」を実施しました。高隈山系の肝属川支流串良川の源流を探検しました。串良川や高隈の森や生物に触れることで、自然の中で「生きている」ことを実感するとともに、仲間と協力する喜びを味わうことで、自己有用感を抱かせたり、川の始まりを見ることで水の循環を体感し、郷土の自然から地球環境の保全を考える目的で実施しました。垂水市社会教育課や鹿大農学部演習林の方々やボランティアの学生の皆さんの協力の下、7月11日の予定を悪天候で延期して実施した行事でした。はじめは、大野ESD自然学校(大野小中学校跡地)で、コースの確認や高隈山系の自然学習やインシニアティブゲームなどをして、仲間同士協力していく意識を高めました。その後、河原でおにぎりの昼食を済ませ、いよいよ川に入りました。最初は、水に濡れることに抵抗があった生徒も、段々と進むにつれて、びしょびしょになるのを楽しみながら、仲間と励まし合って源流を目指しました。沢登りを終えて自然学校に帰ってきたときの生徒たちは、「疲れた～」と言いながらも充実しきった笑顔がありました。



急流を仲間を励まし登ります

故きを温ねて...

郷土の自然と歴史について理解と認識を深めるとともに、長い距離を歩くことで心身を鍛えるねらいで、今回で31回目を迎える「史蹟めぐり」が、9月25日(金)汗ばむ陽気の中、実施されました。地元NPO法人まちづくりたるみずの川崎あさこさんによる講話(垂水島津氏の歴史と功績などの内容)を受けた後、全コース約18kmの行程を踏破しました。コースには、今から300年前、垂水島津家7代久治公がつくった「よめじょ川用水」や熱病の父親のために水くみに行き溺れ死んだ「孝子市太郎の墓」などもあり、生徒たちは、垂水の歴史を改めて知り、「昔の人々のおかげで垂水があるんだ。」と自分や郷土の存在意義などを再認識していました。探索コースのクイズも用意して、単なる踏破だけでなく、遠い歴史に思いを馳せ、長距離を仲間と歩いた秋の垂水路でした。



よめじょ川用水取水口を臨む

